

114
A 2950

寫



運漕會社設之ノ爲メ官至補助之儀、何伺

金以外ニ濫出シテ紙幣内ニ増發シ洋銀ノ相場存リニ騰貴セラ
運賃ノ價格ハ倍々下落シ政府ハ民ト共ニ漸ク將サニ財政困難ノ
場ヘ至リ遭過セントスルヲ以テ都鄙黨然ニ論議百出政府亦將ニ掩フ
一カラサル勢ニ及ントス按スニ財政ハ國家ニ安危人民ノ休戚ニ關スル大
事ナラシテ若シ不幸ニシテ財政困難ノ極ニ陥ルハ政府人民共ニ言フ
一カラサル禍宮ヲ被ラントス實ニ慎重成嚴スヘキ至ナリ頃日開シ政
府大ニ財政ノ困難ヲ患ヘラレ將ニ救濟ノ方ヲ施セラレシト人
民ノ之ヲ待ツヤ大旱ノ雲霓ニ當ナラスヘラ茲ニ忠勝運漕會社設立
ノ事ヲ具陳スニ亦財政困難救濟ノ初歩メニ外ナラサルナリ
夫レ財政ノ困難ヲ救濟セント欲スルハ宜ク先ツ其原因ヲ探究シ之レガ
手段ヲ施サルヘカラス而シテ財政困難ノ原因ハ多クアリト雖反蹊シテ

長崎系

天正十一年四月
隈侯爵郵寄贈



之ヲ貿易出入ノ不平均ニ販セラル得ス貿易先ツ平均ヲ失フルカ
為メ外ニ出ルノ金貨ハ多ク内ニ入ル洋銀ハ少シ金銀既ニ内國ニ欽
乏ス其價直ノ倍々騰貴シ紙幣相場ノ彌々下落ス亦怪ク是ラ
サルナリ財政ノ困難タル原因ヲ斯ノ如シ之ヲ救済スル莫クシク
輸入ヲ防キ輸出ヲ増シ併セテ海運ノ支業ヲ弘張スルニ在リキナリ
其輸入ヲ防クノ方法タル内國官吏一致共同務ヲ輸入ノ外品ヲ濫
用セサルニ在リ政府ノ能キニ各官廳ノ用度ヲシテ成ルヘク内國製不
物品ヲ供給セシメラハ蓋シ漸次ニ輸外品即減スルノ主意ニ因ル
ナリ今之ヲ擴充シテ一般人民推及ス亦難キナラス其輸出ヲ増ス
ノ方法タル大ニ農工ヲ勸奨シテ各種ノ物産ヲ蕃殖セシムルニ在リ
政府既ニ各種ノ職工場ヲ設ケ各種ノ物品ヲ製不出セシメラハ蓋
シ内ノ官民ノ需用ニ供給シ外ニ輸出ヲ盛ニスルノ主意ニ其尤ナリ加ニ
又口地方亦競テ興産ノ支業ヲ謀ルテ陸續躡テ接テ起ラントス

而シテ持リ海運ノ支業ニ至テハ政府誘導ノ及ニサレ所アルカ將々
人民氣力ノ足ラサル所アルカ四方海運ニ便利ナル内國ニシテ未ダ運
漕ノ利益ヲ外人ヨリ回復スル能ハス豈歎息ノ至リナラスヤ
忠勝前キニ紡績器械ノ分配ヲ内務省ニ請ヒ既ニ二重下渡ノ
許可ヲ得ルヲ以テ之ヲ長崎佐賀兩地ニ先置シ目下製糸ノ業
ヲ必ク漸次支業ノ道ニ隨ヒ更ニ新設ニ五中製造所ヲ起シ内
ハ我國ノ需用ニ供給シ外ハ朝鮮ノ貿易ニ充テ
年七月ヨリ十三年六月マテ一ヶ年間當ニ五中製造所ヲ經テ
日本ノヨリ五中賣價ハ代々高昂シテ五萬四千多キニ至リ内外ノ便益ヲ増殖
スル見込アリト雖氏支業ノ新設ニ屬スルヲ以テ年月ヲ積順序
ヲ經カハ目的ヲ達シ實効ヲ見ル期ニ至リ難シ故ニ該支業ハ亦
今ノ財政ニ多少ノ便益アルニ始メ時機ヲ待テ着手經營スル亦妨ケ
ナカルヘシ而シテ茲ニ着手經營セントスルモハ實ニ一日ニ忽カセニスヘ
カテサル縣下固有一大產物ニシテ運漕ノ不便不利ナルヲ救済スル

ノ急務且肝要ナルモノアリナリ
 抑縣下高嶋ノ炭坑タルヤ年々出炭ノ高ハ頗ル巨額ニシラタメクハ外
 國人ノ需用ニ係リ實ニ當港輸出品ノ第一ナリ加ルニ縣下口ノ津港
 フ經テ輸出スル所ノ筑後三池ノ石炭モ亦之ニ準スルノ巨額ニ及ビ
 共ニ國產輸出ノ要部ヲ占メ内國理財ノ伸縮ニ關スルヤ小ナラサル
 ナリ而シテ高嶋ハ長崎三池ハ口ノ津ヲ以テ各輸出及買ノ本地
 トナシ海運大ニ便利ナリト雖モ内國亦運漕支業ノ弘張
 セサルヲ以テ輸出運炭ヨリ生スル所ノ損失亦甚シクヘラ其一ニヲ攀
 ニ西坑石炭供給ノ區域ハ既ニ東洋航海ノ船舶若クハ内外各
 港諸工場等ニ消費スルノ途ナラ以テ兩坑ノ營業者ハ更ニ
 久口港ニ運漕輸出シ内外人臨時ノ需用ニ應セサルヲ得ス而シテ
 此運漕ニ供スル船舶ハ之ヲ内國船ニ求ニカ内國運漕ノ船舶ハ
 其數僅少ニシテ未タ西坑石炭ノ運漕ニ供スルニ足ラス之ヲ外國船

ニ求ニカ運賃ノ不廉ナル收益以テ運賃ヲ支辨スルニ足ラス加ルニ
 西坑ノ營業者各自運漕ヲ競争スルノ情勢アルヲ以テ外人常ニ
 其機ニ乘シ不當ノ運賃ヲ博取セントスル者アリ然ラハ坐シテ
 需用者ヲ求ニカ内國ノ供給ハ自ラ限リアルラ本地ノ山積シ無用ノ坑
 物ニ屬スル外ナシ兩坑主ノ困難ハ殆ト極ト謂フヘキナリ茲ニ於テカ
 不廉不當ノ運賃ニ顧ミルニ迫ラレテ坐シテ入玉損ヲ招カシヨリハ
 寧ロ運漕ヲ外國船ニ倚賴シ販賣ノ路ヲ閉ジニ若カスト屢断ス
 ルノ場合ニ至ル是レ兩坑石炭ノ運漕ヨリ止ムヲ得カハニ損失ヲ生スル
 ノ大略ナリ茲ニ參考ノ為メ兩坑ノ出炭及賣及運送ノ高嶋ノ
 既載ヲ掲載スル左ノ如シ

明治十二年七月ヨリ同十三年六月マテ一年間統計表

地名	出炭高	長崎賣割高	各港賣割高	代高	各港運送船賃高	航海船數
高嶋	一九〇、六九九	八二、三一	三二、九六	五〇、〇四五	三七、四六八	一〇三

奇系

地名	事目	出炭高		内國賣捌高		外國賣捌高		内國運送船賃高		外國運送船賃高		航海船數	
		一四二、二三五	一七、九〇四	四一、三八二	四一、〇七三	一三、二八一	一三、二八一	一三、二八一	一三、二八一	一三、二八一	一三、二八一	一三、二八一	一三、二八一
三池													

○高島ハ内國及支那各港へ運送ハ都テ外國船ヲ用テ故ニ長崎本地賣捌ノ外ハ
 際括シラ目ノ合計ス。三池ハ内國各港運送ハ都テ内國船ヲ用テ上海ハ運送ノ外ハ
 船ヲ用テ○外國ヲ賣捌代金及外國船賃ノ洋銀相場ハ同年中ノ平均ヲ以テ通算ス
 。即今ノ洋銀相場ヲ以テ算スルハ右ニ高ヨリ二割乃至四割増加スルヲ知ルヘシ
 而坑一ヶ年間ノ統計ハ凡ソ右表ノ如ク運漕費ノ合計至高ハ賣ニ
 五拾七萬五千六百拾四ノ巨額ニ及リ内五拾六萬貳千三百貳拾九
 四ハ入レ借入ノ外國船ニ支出スヘキ至額ニシテ輸出ヨリ生スルノ國
 損ナリト謂ハサルヲ得ス而シテ賣捌ニ関スルノ損耗ハ常ニ是レノミ
 ナラス固ト我ニ運漕船舶ノ自由ヲ欠クヲ以テ彼レニ石炭缺乏ノ目
 下需用ノ期ニ臨ム港アルニ運漕供給其機ニ應スルヲ能ハス
 加ルニ上海ノ如キハ兩坑ノ石炭各自競賣スルノ情勢アルヲ以テ

是レカ為メニ不意ノ損耗ヲ受ルトモ亦尠ラス是レ等ハ固ト我カ
 高權ノ振起セサルニ因ルト雖ニ運漕ノ不便アリテ之カ媒介ヲ為
 スマ家ニ甚タシトス僅ニ兩坑石炭ノ輸出ニ関シ彼ヲ利シ我ヲ
 損スルモノ即チ運賃ノ不廉不當ナルト石炭ノ競賣低價ト
 二重ノ損失ヲ為ス夫レ斯クノ如ク推シテ内國一般貿易上ノ損益
 ヲ量ル其不利損害ノ大ナル知ルヘキナリ是レ忠勝カ縣下固有ノ
 一大産物ニシテ輸山運漕ノ不便利ヲ救済セサルヘカラサルノ急
 アリト断言スル所必ナリ
 然リ而シテ之ヲ救済スルノ方策ハ他ニアルス政府特別ノ注意ヲ
 仰キ官入ノ貸與ヲ請ヒ以テ運漕會社ヲ設立シ内外海運ノ支
 掌ヲ經營スルニ在ルヘキノミ縣下幸ニ此輩ヲ謀ルモノアリト雖氏次更ヘ至巨額
 代貸與ヲ仰カサレハ故ハサルノ支業ナルヲ以テ未タ
 其弊ヲ免起スルニエラス言者或ハ言ハシ高某
 會社ヲ保護スルニ官入ノ貸與スルハ政府ノ得策ニ

長崎縣

アラスト 必勝亦之ヲ知然リト雖レ今茲ニ設立セシトスル
運漕會社ハ彼ノ一部ヲ限ルノ商業トハ大ニ其度ヲ失フ
異ニシハ會社ノ目的タルヤ至ニ海外航海ノ支業ヲ弘張シ彼
外國人ヲシテ水ノ運漕ノ利ヲ專有セシメサルヲ期シ外ニ取ラレテ
現貨ハ内ニ止メ以テ内國一般ノ便ヲ謀ルニ在ルナリ而シテ方ヘテ
財政困難ノ原因ハ彼ノ如クシテ僅カニ石炭運漕ノ一業ヨリ生
スルノ損失ニ亦斯クノ如キノ巨額ナルニアラスヤ夫レノ理論ニ拘泥
シ支業ヲ防碍スルノ秋ニアラス必ニヤ一害ノ除クヘキアハ之ヲ除キ
一利ノ起スヘキアハ之ヲ起シ上下協心官民戮力以テ國家ノ
一大事件ナル財政ノ困難ヲ救護セサルヘカラサル時ニアラスヤ
殊ニ長崎ハ西海ノ要衝天然ノ良港ニシテ古來外交ノ地ニシテ
鞏固ニ及ニテ貿易益々衰微シ高業益々萎靡シ中外民
漸シ疲弊ノ極ニ陥ラントス而シテ之ヲ維持スル恃ル所ハ但々

海運ノ一路アルニ此故ニ長崎ノ貿易ヲ保護スルハ偏ニ運
漕會社ヲ比地ニ置キ以テ内外各港航海ノ線路ヲシテ永シ
當面港ト聯絡保續セシムル外亦良策ナキヲ信スルナリ
政府幸ニ此議ヲ取進納セシメ官至五拾萬圓四拾萬圓ハ千圓
積ニ蓋氣船四艘
買入代裁リ拾萬圓ハ石炭
為換入手シテ豫備ノ積ノ下ニシテ運漕會社
設立ノ榮ニ至ラハ大ハ財政困難ヲ救済スル一助ト為リ小ハ
長崎港ノ衰微ヲ回復スル基礎ト為リ一舉兩入至ノ策ナ
ルヘシ其會社ノ組立并ニ官業ノ方法ヲ守リ至ラハ縣下有志
輩一協議審察セシメ更ニ之ヲ口至ヘシ仍ラ先ツ運漕會
社設立必要ノ支由ヲ具陳シ何分ノ御裁令ヲ仰キ候也
明治十三年十月二日 長崎縣令内海忠勝

内務卿松方正義殿
大藏卿佐野常民殿

追々本支ハ財政困難ヲ救済スルノ緩急順序ヲ畧記
シ外國關係ノ要ク急部分ヲ舉ケレセノハ内國ノ部分ハ
他日愚見ヲ上陳スルノ積ニ有之候也

